

令和3年度 第2回総合教育会議 会議録

開催日時	令和3年8月20日 金曜日 13時30分から14時57分まで
開催場所	二宮町町民センター2A クラブ室
出席者	村田邦子町長、森英夫教育長、渡辺優子教育長職務代理者、野谷悦教育委員、岡野敏彦教育委員、山内みどり教育委員
町部局	政策担当部長
教育委員会	教育部長、教育総務課長、教育総務課長代理、教育総務課G I G A スクール担当
その他	傍聴 6人

※会議次第および資料は、別添ファイルのとおり

会議記録

1. 開会

(司会：教育部長)

開会にあたり、司会（教育部長）より会議の公開を諮る。

—許可、傍聴者入室、着席—

2. 町長挨拶

(町長)

7月後半から8月に入り、二宮町の方でもコロナ感染者が連日出てしまっていて危機を感じています。それに伴い週明けの24日(火)から、町内の全公共施設を閉館の方向で行きたいと思えます。緊急事態が解除されるまでということなので、9月12日に開館できればと思えます。当初より慣れが出てきていると感じますので、改めてしっかり注意喚起していきたいと思えます。あと一週間しますと新学期が始まります。いろいろと対策をとりながら進めていきたいと思えます。本日はよろしく願いいたします。

3. 協議・調整事項

(町長)

まずは、コミュニティ・スクールに係る地域学校協働活動についてということで、1枚資料が出ております。事務局より説明をお願いします。

—事務局より説明—

(町長)

何かありましたらいかがでしょうか。

(山内委員)

コミュニティスクールに関しては、小中一貫より前にも話が上がっていたにも関わらず、やはり五校を並べた時にとっても軌道に乗ってやっているところ、それ程でもないところ、ちょっとまだかなというところ、進み具合が色々であるというのが少し心配です。中でも一色小学校は、メディアに出して、例えばNHKの番組で全国的に「二宮町のコミュニティスクールはこんなことをしていますよ」と報道されても恥ずかしくないくらい、Facebookも使って、すごくスピーディーに多彩に進めていることを発信しています。手法がとても先端的といえますか、よく動いています。軌道に乗ってやっておられる学校にはキーパーソンがいます。その方がフットワーク軽く、いろいろなアイデアを自分だけではなく上手に周りの方々を巻き込みながら、そしてキーパーソンの方は、現在、または以前にその学校の保護者であるというところが特徴かなと思っています。ご自分のお子さんが通っている学校で保護者のPTAの人として一生懸命活動し、ご自分の人脈で地域の方を引っ張り込みながらコミュニティスクールはこういうものですよと紹介もして下さりながら、熱心にやってくださっています。一方、まだそこまで活発ではない学校は、まだどう動いていいかわからないというか、本当にリアルに学校の状況が手に取るようにわからないというところかなと思います。地域の協力者を人材バンクとして呼びかけており、人材は集まっていますので、双方を結ぶ方が一人いて下さると良いと思います。学校の先生がそれをなさるのでは仕事量がオーバーになってしまいます。また今やってくださっている方はお子さんが卒業すると次の学校へいってしまう。子どもの状況も分かる保護者や学校を退職されたOBの方に適任者がおられると思います。学校のニーズと地域人材とのコーディネーターを見つけていくとスムーズにいくのではないかなと思います。

(町長)

地域の雰囲気もありますから、それが出ているのかなと思いますし、それが良い悪いということでは無いと思います。今お話にあったように、コミュニティスクールって何というところから始まって、一色再生協議会という百合が丘、緑が丘の一色小の学校区にそういう別の組織体が丁度できた時で、一色小が先にやっていたことが良いモデルになったのかなと思います。それぞれ学校や地域の特色とキーパーソンがいると思いますので、これからもそういう方々を中心に地域と学校が連携をしていければと思っています。今、キーパーソンの話で先生のOBというお話ですが、地域学校協働活動推進委員が各学校にいる訳ですよ。推進委員を先生OBというイメージですか。そうでなく、また別のコーディネーターのイメージのお話をしているのですか。

(山内委員)

そうです。また、学校運営協議会です。お願いとしてはそういう方がしっかりと活躍できるような予算的な裏付けが出来れば良いと思います。

(町長)

それは地域学校協働活動推進委員の役割でいいですよ。そこには一応予算も付いていますよね。

(教育部長)

そうです。

(町長)

その中で今後に向けての課題はありますか。多分こうしたら、ああしたらという思いは勿論あるのですが、そういう人がいるのか、学校の体制はどうなのかなどいろいろな課題もあると思いますが、次年度、今後に向けて何かもっとうこうしたら、こういうところを工夫したらというご意見があったら、是非お願いします。

(岡野委員)

コミュニティスクールについては、過去に実践例を分類したことがあります。そうすると、コミュニティスクールの性質として大きく三つに分けられるというのが分かりました。一つが学校支援、見守りなどです。二つ目が学習支援、授業を教えるじゃないにしても、それを補助する意味でいろいろな学習をサポートします。そして三つ目がキャリア教育です。実際の社会で活躍されている方が学校に入って、子ども達に仕事感やキャリア形成に繋がるような話を聞かせてやるというのが3つ目の役割です。実践例の中では、学校支援・学習支援・キャリア教育の三つはほぼ同じくらいの割合で含まれていました。地域の方が学校に入る意味は、いろいろな先生方が活躍している様子や学校の良さを地域の方に知ってもらうという意味があると思います。地域の方だからこそできることがあると思います。実際の社会で活躍している人がどんな思いで、あるいはどんなマインドで仕事をしているのかという、キャリア形成に繋がっていくところを子ども達に見せてやるというのが大事な役割の一つかなと感じています。なので、やはり現状は学校支援や学習支援にかなり重心が置かれていますが、この先はもう少し拡大して、キャリア教育の部分まで含めて、充実させていけるといいかなと思っています。

(町長)

きっとそれは今後の課題で、学校と繋がりたい地域の人の発掘やOB、いろいろな人材バンクというような、名前の呼び方は違いますが、それぞれ学校ごとにそういうものを作ろうと

思っていられると聞いていますので、そこからですよ。じゃあ私という方がいろいろとたくさん出てきてくださることが面白いのかなと思います。他に何かありますか。

(野谷委員)

山内委員のお話に繋がりますが、地域学校協働活動推進委員で地域の方が頑張っていられる。学校が今までやれなかったことを自主的にやっていただいて、それはとてもありがたいです。そのベクトルの言うと、地域から学校へのベクトルです。もう一つは学校から地域へのベクトルで、それが合わさって力を発揮すると私は思っています。今の予算措置は地域から学校へのベクトルの予算で、それが地域学校協働活動推進委員です。学校には管理職がいる、或いは総括教諭にも地域担当がいる。そこがいっぱいいっぱいだから、何かそういうところでの想定と言うのか、そこを作ってほしいなと思います。

(教育長)

教育委員会議の中でも野谷委員さんからお話をいただいたのですが、学校の教員目線で、学校の教育活動で何が地域の方に入ってもらえるように整理をする必要があるというのが野谷委員さんのご意見でした。町としては地域学校協働活動推進委員さんにやっていただけたらありがたいということで、先程その推進委員さんが学校教員のOBだったら更にいいのではないかというご意見をいただきました。コミュニティスクールは学校を開くということですが、まず中身です。教育活動として、何を子ども達にやってきてどんなことだったら地域の方が学校に入って力を協力出来るか、というところを理解していただいて、コーディネーターの推進委員さんと共有してもらえるといいのかなというように思っています。一色小や二宮中は大分進んではきましたけれども、実際に自分も教育活動をしていた時に、授業で地域の方々に来てもらえるとありがたいと思うようなことがたくさんありました。例えば小学校の家庭科のミシンの授業などでも実際、長年課題があったので、地域の方にどんどん入ってきていただいた実績があります。それが家庭科だけに限らず、理科や社会など、いろんなところでも、地域の力を子ども達に還元することが出来ると思います。そういうことが出来れば、地域のリタイアされた方でも、子ども達のために活躍でき、生きがいも感じるし、子ども達も地域の方と顔が繋がって、町を歩いていても顔見知りみたいなことで、不審者扱いされなくて済みます。そういった部分に繋がっていけばいいなと感じました。ただ、昨年度はコロナの関係でなかなか多くの方に学校に入ってきていただけないのは残念だなという印象です。

(山内委員)

コミュニティスクールのそもそもの狙いは、地域全体で子どもたちを育てようという意識を共有するということだと思います。学校は、外から見ると見えない壁があります。学校側も防犯面から、ということも関係して見えない壁を作っているところがあり、ここからは

入らないでくださいみたいところがあります。勿論、防犯上は入ってもらっては困る場合もありますが、やはり大人たちも、気軽に学校に入れることにより、地域の子ども、私達で育てている子どもだよという意識が生まれるものかなと思って、そこが大切な部分だと思います。学校と地域が溶け合っていくことが大切だと思います。学校と保護者と地域の方々との連携が大切です。様々なCS現場の事例を見ると、最初、地域の人が学校に入って行きづらいというか、どこをどういう風に自分はお手伝いすればいいのか分からないという問題があるようです。二宮小で一度CSのミーティングがあり、その時に感じたことは、本当に良い方ばかり集まっていっていいということでした。学習支援関連の集まりだったのですが、こんなこと自分はできるんだけど学校にどんなふうに関与できるかなとおっしゃって、そこに植木の刈込をやってくださる方もおいでになって、そういう方は枝が伸びてからちょっと切っておいたとか、そういう話が出来はじめるとCSが育ってくる訳です。学習支援とか授業に入っていくとか、どこでどういう風に自分の力を使えるかなど、そこがまだ噛み合っていないという、先生達もどう入ってもらえればいいのか分からない、そこがまだ一体化していないと感じました。二宮小だけの問題ではなくて、どこでも共通したコミュニケーションのプロセスの最初の方の段階です。そこが乗り越えられるように、やはり繋ぎの人、コーディネーターの存在、その方が活躍できる仕組みが必要だと思います。

(教育長)

一色小学校は48件のサポートが入ってもらえたという中で、サポーター延べ人数246人という実績がありました。私も何件かはどんなことをやったのか分かっているのですが、もし指導主事や課長の方で、何か事例があれば聞きたいと思うのですが、如何でしょうか。

(教育総務課長)

私がいただいているスマイルネットさんの活動一覧だと、一番多いのは学校の教育課程における外部指導者としての、例えば理科の実験のお手伝いや、顕微鏡を見る時に保護者が手伝いに来てくれたり、友情の山の梅もぎや、一色ソーラン衣装づくりなどがあります。chromebookの操作の時に保護者が手伝ってくれたり、大掃除の時にも手伝って来てくださったり、ジャガイモ植え、ガスコンロの扱い、要は大人がいないと厳しいねというものに関しては、かなりの頻度で保護者さんが複数名お手伝いに来て下さっているという印象です。

(町長)

先に学校側からメニューを出して、そこにやれる人とやったのか、それとも、地域からこんなことが出来るということなのでしょうか。

(教育総務課長)

一色小の例でいくと、CS の会長さんと地域学校協働活動推進委員さんが同じ方です。その方は出来るだけ地域の方が理解するようにどんどん学校に入り込んで、学校について教えてもらうという方です。その会長さんが学校の困り事を自分で見つけて、自分で組織の中でこういうことで困っているから人を出してという風になっています。地域学校協働活動推進委員としてのコーディネート機能をその方自体が果たしてくださっています。

(教育長)

当初コミュニティスクールが導入された時に自分のイメージの中にあっただのは、地域の方に学校を見てもらう代わりに、子ども達も地域のために経験出来ることがあったら、地域にどんどん出させていって、立派な苦勞をしてもらえるといいなと思っていました。例えば西中学校の地域の防災の道具チェックや、危険箇所リストアップしてくれたりしているというのは聞いたのですが、何かもっと地域のお年寄りの為に何か出来るとか、子ども達が地域に出ていって、地域の為に活躍出来て、地域を活性化するような、そういうようなことが出来たら本当のコミュニティを作れるのかなと思います。

(渡辺委員)

今、五校に推進委員さんが設置されて、推進委員さんのマンパワーで一色小みたいに本当に上手くいっているところや、山西小でも最近では推進委員さん自ら学校に訪ねて行って、例えば何年何組を見ている先生はこういうことにニーズを感じている、こういうところを助けて欲しいと思っているなど先生方から直接聞き出していって、そこで何が出来るかという形で関わるようになっていくという話も聞いています。それが地域側の人材のネットワークが強い人と学校の内容や先生方の気持ちを分かっている方、両方の視点を持っている人がいると、より現場の先生方や管理職の先生の負担を減らせると思いますし、もう少し時間が掛かるかもしれませんが、両方の側の人で上手く支えることが必要なんだろうなと思っています。今中学校の推進委員さんがいて、先程キャリア教育の面があまりこの資料に反映されていないのでというところがありました。ですが中学生になると高校大学を見据えて、夢や希望や、こういう職業などいろいろ思ってくると思います。私は、例えば生徒会と一緒に子どもも当事者として入っていくのもいいんじゃないかなと思います。中学校の方が軌道に乗ってきたら、そういった生徒会と一緒につくっていくみたいなことを出来るのかなと思います。

(町長)

当初はでっこみ引っ込みありますが、それが特色だと思えばいいのかなと思っています。やはりそこにどういった地域性と人がいるかということもあります。次年度も続いていきますので、声はしっかり受け止めて活動しやすい様にとしたいと思います。こちらとしてはちゃんと耳

を傾けて受け止めて、やりにくいというところはどうか解消したらいいんだろうとしっかり受け止めたいと思います。また、今日はこれだけのまとめですが、その辺を行政としてはもう一度整理して、次年度に向けてしっかりサポートしていきたいと思います。今、PTAの存在がたまに新聞やニュース出てきて、民間に委託する所も出てきたとか、いろいろ話を聞きます。そういう中で二宮版コミュニティスクールという形で結構進んでいる、面白い活動が五校の特色があると思いますが、発信するツールがそこまで無いんですよね。

(教育総務課長)

学校のHPがあります。

(町長)

学校のHPで発信すればいい訳ですね。

(教育総務課長)

二宮中さんはCS便りみたいな、何かありますよね。

(町長)

そういうページがあるんですね。分かりました。

(教育長)

町コミで、二宮中の委員さんは申請をして直接発信しています。

(町長)

ではコミュニティスクールについては、後で何か意見があったらお願いします。ありがとうございました。次の、通学路緊急点検についてです。通学路の点検は毎年行っているのですが、八街市のトラックが通学の中に突っ込んでしまったという事件を受けて、緊急点検の要請が国からも来ております。そういったことを含めての、終えての報告が出ておりますので、報告をしていただけますか。

—事務局より説明—

(町長)

ありがとうございます。児童生徒安全委員会にはこの4課と警察が出るんですね。

(教育総務課長)

はい。そこにPTAや学校長がいます。

(町長)

そうですか、分かりました。皆さんの方でもご意見があると思いますが私も、コミュニティスクールで見守り活動をされている方からも要望を実際にもらいました。やはり朝の通学で危ないからガードレール、それが無理ならどうしようという話で、私も現場を見に行き、それは伝えました。地区の役員も PTA も変わって行って、横断歩道の斜線は来年には引き直しますとその時に言っても、地区でそれが引き継がればいいのですが、別の役員に変わった時に、横断歩道の線が引かれるという話まではなかなか引き継がれなかったりします。同じことが出てくるという繰り返しもあります。その辺、地区や保護者の PTA にしっかり返していくことも毎年やっていかないと、保護者も変わっていきますから、そういう風に感じました。やはり出来ること、出来ないこと、その中でどうしていくかということ具体的に話すしかないかなと思って、最終的には通学路そのものを真っすぐ行くのではなくて、一回横に曲がってから回って行くと安全じゃないかなど、そういう方法も実際に見てあるなと思いました。本当の事故になってしまえば大変なので、いろいろ工夫でいけるかなと思っております。如何でしょうか、この辺は。それぞれの地域で生活している中で、いろいろと感ずることがあると思うのですけれども。

(岡野委員)

緑が丘の自治会で役員をやった時に、夏くらいに町への要望書というのを自治会で出しました。その要望書は過去に提案した案件が今どうなっているのかの情報が積み上がっていく仕組みになっています。なので、通学路の安全性に対する要望も同じように積み重ねて行って、それをどういう組織体がそれを受け継ぐかというのは別の問題としてあると思うのですが、やはりそういう形で継続して繋いでいくことが必要だと感じています。何か起こる度にその都度、紙を重ねていくような仕組みがどこかに必要なのかなと僕も痛感しているところです。完了、継続中、取り下げなど、いろいろなアイコンが付いていて、現状や過去の実績が分かるようになっている、そういう仕組みが必要なのかなと感じています。

(町長)

これは、教育委員会の方で吊り上がっていると考えていいのでしょうか。

(教育総務課長)

そうですね。最初は枠をずっと繋げていこうと思っていました。そして処理・未処理で分けて、処理したものは網掛けにし、網掛けにされていないものはずっと残っているということで、忘れないようにというレイアウトも考えました。ですが実際には非常にデータ量が膨大なので、最終的には年度ごとにきちんと分けて、未処理のものは分かるように綴っている形になります。

(教育長)

今頃になって申し訳ないのですが、学校へのフィードバックというのは参加者、学校関係が入っていないみたいですが。

(教育総務課長)

すみません。各学校の教頭先生が出られています。

(町長)

一緒に見ているんですね。

(教育長)

はい。実際に教頭先生からもお話を聞いて見回りをしているということなので、安心していいですよ。これはもう共有しているんですよ。

(教育総務課長)

はい。2月の会議の時も校長先生が出てこられるので、その点検の結果、どういう対応をするということも学校長に伝わるようになっています。

(町長)

参加者のところには、各学校教頭参加ですね。分かりました。多分これは都市部と防災安全の方と教育と、役場の中でも三課でそれぞれが持っているのはまた違います。地区要望は地区要望で持っているし、都市部は直接道路の要望や苦情を持っています。教育の部分はそちらでまとめておいていただいて、こういう時にそこを突合すれば地区からも出ているから、それは今年度中に直す、来年度以降になってしまう、などという話が解決していくと思います。なかなか集まる機会が庁内でさえ無いので、これが共有化する場にしていただければと思います。私も百合が丘の横断歩道が、本当に線が引っ張ってあったのと思うくらいにまっさらに消えてしまっていて、ここは横断歩道が前に引かれていたと言われて、えっと思った箇所もありました。それも地区も言っていたような、いつから言っていなかったとか、言ったけどやるって言ってそのままだったというのがあるので、年に一回いい機会として、役場の中でも有効に使っていきたいと思います。よろしいでしょうか。

(山内委員)

別の件ですが、八街市の通学時の事故もありましたので、通学路の安全確保についてのお話を聞きたいと思っていました。ブロック塀について昔から心配しています。地震で倒れそうなものが通学路にあり、とても危険と思っているのですがどのような方法が講じられているでしょうか。

(町長)

ブロック塀の撤去に関しては、補助を出しています。ですが基準があって、何m道路に面しているか、行き止まりでないか私道でないかなどいろいろあります。その持ち主も通学路になっているところなので気にしていて、補助が使えるならというご相談があったみたいです。

(政策担当部長)

今年度、私道はまだ補助対象になっていないと思うのですが、通学路は正確に言うと私もうろ覚えです。ある程度の幅が無いと当初は補助対象となっていなかったのですが、それが緩和したというのが今年度です。来年度は私道であっても、通学路の場合は補助対象にしたいという風に担当課から聞いています。通学路に関しては来年度からは全て対象になるといったようなことで、今検討が進んでいるという状況です。

(町長)

二宮は大きな産業道路がある訳ではないのですが、点検の結果をしっかりと次に繋げていくようにしていきたいと思います。また何かありましたら、ご意見よろしくお願いたします。それでは次の三番目に移らさせていただきたいと思います。町の計画づくりへの児童生徒の参画についてです。これは今、第六次二宮町総合計画の策定に入っているのですが、今回、小学校、中学校、いろいろと担当と工夫して意見交換をさせていただいています。その報告をお願いします。

(政策担当部長)

今年度と来年度の2か年で、総合計画を策定していきます。総合計画審議会の方には教育委員さんからも出ていただけたと思いますが、これはまだもう少し先になります。今、町民の方々にアンケートや今後、ワークショップなどといったことをやっていくのですが、今回初めての試みになる、児童生徒さんにもお話を伺っていきましょうということでやっています。既に小学校6年生と中学3年生の400名に対して、アンケート調査を実施いたしました。こちらのアンケートを作るのにも校長会、或いは教育委員会と調整をして、設問を作っていました。まだ取りまとめは出来ておりませんが、ご紹介する機会もあろうかと思っています。その他に、児童生徒に町づくりに関わっているという意識を持ってもらおうということで、町長が出演する動画を作成します。アンケートに取り掛かる前にその動画を見ていただいて、中学校では授業の一環として、取り扱っていただいたということもありまして、二宮中学校HPでその事例が紹介されているという風に聞いております。今後集計が終わりましたら、子どもさん達にもフィードバックして、他のアンケートに回答していない方も含めて、どういう未来を描いていけるかなということを共有できればいいのかなと思っています。今後ですが、9月に中学校の生徒会、両中学校と同時に集まってもらって、そこに町長も入

って、アンケート結果を踏まえたワークショップ、未来の町づくりということでやります。具体の日時や場所等は学校と調整中です。コロナの状況がありますので、場合によっては子ども達とテレビ会議をするといったこともちょっとあるかもしれませんが、いずれにしろそういう機会を持ちたいということで、今学校と調整中ということでございます。

(町長)

今回は子ども達が、町の今後10年間の計画づくりに意見をもらいたいということで、最初は校長会の方に説明をしました。総合計画ってこういうものだと分かりやすい資料を作って、それを読んでもらい意見をもらえるかという提案をしたら、学校の方からどういう意味合いがあるのか、どういう思いなのかということで、町長の言葉としてビデオを作ってもらえないかとお話がありました。短いですが私の言葉で作らしましょうということで、まずはそれを作らせていただきました。私の方からは、町のいろいろな計画づくりにも携わったことも一町民としてもあったという経験をお話させていただきました。皆さんのお父さんやお母さん、おじいちゃんおばあちゃんにも意見は聞くけど、皆さんが一番若者代表で二宮の未来を一番長く見守っていく世代だから、是非皆さんからの、ここはこのまま守って欲しい、ここはもっと変化をつけてもっと新しくこうして欲しい、そういった意見やアイデアと一緒に考えて欲しいというメッセージを話させていただきました。そうしたらこんなに五校でアンケートをいただきまして、すごくびっしり内容が書いてありました。私も読まさせていただきましたのですが、今それをまとめています。全部を細かく分析は出来ないにしても、同じ様な意見やこういう町を皆さん想像している、造りたいと思っている、というところをまとめてもらっています。それをまた五校の六年生と中三の方に返していきたいと思えます。来年度中に総合計画の基本構想をつくりますので、そこにどう反映されるのかというのも経過を見てもらえればと思います。いろいろな形でアプローチしていきますので、こういうやり方がいいんじゃないかというのがありましたら、担当の方に教えて下さればと思います。今後、環境基本計画も今年度と来年度に作っている最中なので、そこにも若い方の意見を反映させる手法を考えていますので、よろしくをお願いします。

(岡野委員)

子ども達が町の要請に参画するというのは、やはり僕は必要なことなのかなという風に感じます。先程、キャリア教育の話をしていただきましたけれども、自分が将来どう生きるのかということの最初のきっかけが、町に関わることなのかなと感じます。社会が今求めている人材は、単に教科書の勉強ができるだけではなくて、実践的な力、考える力や実行力や参画意識など、そういうところが求められているんじゃないかなと思います。この前、池上彰さんの教育激変という本を読みました。ここで紹介されているのは、最近の大学の教育テストの中身が変わり、より実践的なことが題材になっているということが話題になっています。その象徴的な事が、観光地の街並みを保全するための設問です。街並みの景観を維持

するために行政が各地元の人に負担を要請するのに対して、親子が言い争うことが題材になっていて、それを読んで次の設問に答えなさいというのが議題になっていました。お父さんは町が負担するべきで、娘はそれぞれの家庭が少しずつ分担するべきだということで意見が対立します。それに対してあなたはどうかと考えますかと、記述式の問題なんです。大学の入試問題で何故このような設問が出るかという、やはりじっくり実践的なことに取り組んでいく姿勢を求められているからです。教科書のことだけでなく、その知識を組み合わせより実践的に大人が本気で取り組んでいる姿を子ども達に見せてやれることがすごく大事なことなのかなと感じます。これは単に入試問題だからということでスルーするのではなくて、社会が求めている人材ということを意識すると、小中学校のうちから町に対して僕はこうしたい、こうなったらいいと思うというのをきちんとと言える人材というのが必要なかなと感じます。子ども達の見目がどこにあるかは、実際のアンケートを見ていないので分かりませんが、どんなに小さなことでもすくってやる、町づくりにも生かしてやるということが、アンケートを受け取る側の役目だと思います。単にこういうのがほしいという一言であっても、文化の町二宮というところに繋げていって、君の一言がきっかけになったんだよということを生かして子ども達に返してやる、そこがすごく大事なことだと思うので、やはり子ども達が参画していくという仕組みは継続してやっていくべきことなのかなと感じます。

(野谷委員)

子どもの意見を大切にするというのはとても大切なことですが、その聞き方が難しいだろうなと思います。子どもに何をやりたかを聞くと、様々な意見が出て、まとめるのが難しいです。また、子どもは経験が少ないので、それをあらかじめ整理して提示するのは大人の仕事なのかな、と考えます。私は第四次総合計画に関わっていました。そのとき「税金をどこに投入するか」という問いで、吾妻山などの山水に投入します、海に投入します、川に投入します、などの問いかけがありました。その時の意見は圧倒的に川でした。何故かという、川が臭くて汚くて、これが問題だと感じていたんです。いろいろある町の人々の意見を整理して提示して、それに就いて話し合ったほうが良いと考えます。子どもの意見を大切にするというのは聞き心地は良いんだけど、出してもらった意見を生かしようがなくなると考えます。

(町長)

今回も質問が抽象的で大枠な聞き方ですが、最後に良い町にするのに町や誰かがやっただけではなく、あなたはどうかやってみようかというものでした。何か出来ることがあるだろうかということで、行政もやるけれど自分達もやろうという、そのお話もどこかで子ども達にしたいですし、そういう方向で話していきたいと思います。やはり子ども達がすごいと思ったのは、三年前に一色小の防災訓練を見に行った時のことです。ベルが鳴るまでに時間があったので、担任の先生が町長さんに質問することはありますかと、4年生に振り

ました。急に振って出来るのかなと思ったのですが、皆ある程度町のことを知っていますし、自分なりに考えたことをすごく質問してきました。こんなに受け止めているいろいろなと考えているんだなと思いました。子ども達は十分受け止めると思うので、今度は中学校の生徒会が相手ですが、意見交換をととても楽しみにしています。

(渡辺委員)

川崎市で子どもの権利条例ができた時に子ども達も参加し、200回の会議をしてつくったと聞きました。今年が施行20年ということで、その条例ができるまでという本が出版されています。今20~30代になっている当時の子ども達が、あの時はこうだったよねと振り返るものも、本当に中身が充実していたのだなというのがよく分かります。そこまでやるのに、正直生半可な覚悟では出来ないと思っているので、ただ、子どもがどういう意見を出すかというところを、子どもは言葉足らずですが、直感的な言葉や本能的な言葉が出てきたりします。今年のエコフェスタで出てきた、子どもリポーターに何か月も付き合ってみると、本当に考えています。例えばSDGsの達成率について6年生の女子が話していました。関心や興味を持っていることを、自分でどんどんツールがたくさんある分、情報をたくさんとっているなどびっくりしました。去年採択した中学校の教科書を見ている時も、公民や地理の内容は私達が学生の時と全然違います。先程も紹介がありましたが、住民としてどうするのかという町の課題に対してどう話すのかみたいなことが事例として教科書の中に載っていたり、それは中学3年で公民をやると思うのですが、そういうのがずっと根付いてきている世代の子ども達でもあると思います。そのアンケートも出来れば原文で読ませていただきたいと思うくらい、どういう言葉でどういうことを書いているのかなとすごく思います。今後に期待しています。

(町長)

ありがとうございます。いろいろな場面を通じて、進めていきたいと思いますので、またいいやり方などご意見があったらよろしくお願ひします。それでは最後は小中一貫教育の進捗状況について、資料も出来たということなので、説明の方お願ひします。

—事務局より説明—

(岡野委員)

我々教育委員は今、自発的に勉強会というものをやっていて、まずは何を目指すかというメリットの視点をリストアップしています。そこでは、将来、こんな姿になったらいいな、こういう状態になったらいいなということをリストアップすることをやっています。次にそれを実現するために具体的にどうやってやるんだというところも視野に入れて、やろうとしています。どうやって実現するのかというところの中身は教育的な視点もありますし、行

政的な視点も勿論あると思うので、やはりそうなった時に具体的に学校をどこに置くのか、それが町づくりに成功しているのかなど、そういう視点も含めてアイデアや頭を回していくことになると思います。具体的にどれくらいというのは分かりませんが、いずれその勉強会の成果とここに出てきたアイデア等を含めて、もう少し皆さんで意見交換をする時が来るのだらうなと思います。

(教育長)

小中一貫のグランドデザインを来年度中には完成させたいということで、清水先生や教育委員の方からも提案させていただきました。前回の学校の職員と私達も含めてのアンケートをとっていただき、一番の肝になる資質能力の育成ということで、そのポイントを3つに分け、どういった視点で資質能力を育成するかというキーワードみたいなものを絞り出すためのアイデアを教育委員さん達にいただきました。まだすぐには完成しませんが、小中一貫教育の教育目標のすり合わせするためにも、グランドデザインの作成を進み始めているのが現状です。

(山内委員)

町内に二巡、いろいろな方々と意見交換をしてきまして、様々なご意見を受け止めて、ここはもう少し検討が必要かな、まだここが十分な説明がされていないかなど、検討してきました。一方、今は清水先生を中心に、吉新先生のお力もあって、この町の小中一貫校のグランドデザインについて、学校の先生達や私達と共有し合いながら、例を挙げますと、小中の国語の先生が集まられて、一緒にカリキュラム作りをなさっており、具体的な内容の部分は、いつ小中一貫が分離型で始まってもいいように着々と準備が進められています。ですが三巡目の説明会を開くタイミングでコロナ禍となってしまいました。コロナ禍では教育委員会の皆さんが本当に大変で、日々変わる学校現場の対応に、追われていました。それでは、そこにサイドカーのように伴走しましょうと始めたのが勉強会でした。勉強会では議論を小中一貫に特化し、定例会での決議に必要な資料やまとめなど何でも振って下さいとお手伝いするイメージで始めました。三回話し合いをして、こんなメリットデメリットがあって、でも目指すのはどこかという話し合いが進んでいて、常に少しでも前へ進めるべく、これから具体的にというところです。

(町長)

私もそういうのをやっていただいて、こういう成果物も出来てというのはありますが、やはり保護者や子ども達、地域の人達には二回の時から時間が経ってしまっていて、今何しているのか、どうなったのかという状況なのかを知りたいのだと思います。本当でしたら8月26日にお話をさせていただこうと企画をしていたのですが、延期になってしまいました。ですが今年度中にどこかでその考え方や、何を目指してどういうことをしているのかという

のを町民の方にも知っていただきたいので、やりたいと思っています。一般の方からすると本当に見えません。分離型といっても小学校は小学校、中学校は中学校で何一貫なのと、普通に人にとっては分かりにくいと思うので、その辺も含めて、令和5年から分離型でカリキュラムをやっけていこうとしているので、説明を丁寧にしていきたいと思っています。一度にどこかに集めてというのが無理なら、小規模で大きいところでガラガラな感じでもいいので、回数を重ねた方がいいのかもしれない。その状況に応じたやり方を考えて、まずそれをやっけていきなと、私は逆にそちらの方を皆さんに研究していただいているのですが、私としてはアウトプットを早くしたくてしょうがないので、そこの日程や方法を至急考えたいと思います。よろしくお願いします。

(教育長)

講演会を延期ということで、1月頭に予定しておりますので、ご承知おきください。

(野谷委員)

小中一貫の中身の説明は今いろいろと説明があった通りです。そのことはとても大切です。しかし「議会だより」や各議員さんのビラを見ますと、そこに問題意識がある訳ではなく、むしろ学校の統廃合を問題にしています。地域の人々との話し合いが終わり一年半が過ぎています。その間にコロナ対応があったけれども。そろそろ教育委員会としての考えを出していかなければいけないと強く思っています。考慮すべき条件は、一色小学校の単級問題や来年度から二宮西中が2学級になることです。2学級だと教科担任制がきちんと維持できなくなる。また、地域での話し合いの中でも子ども同士が磨き合う規模が必要だという考えも出ていました。その後、山西小学校も単級になってしまいます。激減しないのが二宮小学校と二宮中学校です。それらの条件に小中一貫校つくるという願いを入れて、どういうスケジュールでやっけていくかするか、が課題だと考えます。また、町の公共施設再編と同時進行でやっけていかないとダメだと思うんです。今サイドカーのお話がありましたけれども、小中一貫の中身学習とPR, それからもう一つは小中学校の再編計画の両方やっけていくのが、我々教育委員の立ち位置かなと考えます。今はむしろ後者の方が重要だと考えます。

(渡辺委員)

今年の4月から、そういったサイドカーで行き続けていこうということで、どうしても月一回の定例会議だけでは足りないなので、オンラインを使ってやらせていただいています。昨年度からは吉新先生に入っけていただき、ソフトやカリキュラムの部分が着実に進んできているところもあります。一方で、いつまでに何をどう決めるのかという決断の部分が少し曖昧というか、やはりそこもゴールを決めていかなきゃいけない、そのためにどういう材料が必要かというところが、ちょっと私も不安があります。

(山内委員)

同じですけど、先程の子ども達のアンケートのお話がありました、小中一貫校プロジェクトも、やはり町全体の方向性に関わってくるということがあります。そこについては、大人のプロ達が方針をしっかり決めていかななくてはならないと思います。最初に申しましたように、スピーディーな世の中になっているからこそ、スピード感をもって、こうだと決めていく我々の強い決意が必要な時が来ているのかなと思います。

(町長)

教育委員の方の話が進んでいる、その議論が深まっているということは、経過が重要だと思います。今日は時間ありませんが、いろいろな意見が出ていますので、その辺も受け止めて聞いていきたいと思います。その中で町の方針ということにならないと、建物の統廃合の都合や財政的なこともあるから、ということが先に立ってしまうのは逆転してしまうと思います。やはりそこに今通っている人やこれから通う子ども達、教育の場である学校をどう位置付けていくのか、そういう議論がされていると思いますので、そういったところをしっかり受け止めていきたいと思います。勉強会の議事録、今回こんな形で出来ましたという細かい報告は受けていませんが、その辺をまとめたもの、これまでも複数回やっていらっしゃるということなので、それをまた聞いて参考にして考えていきたいと思います。その部分、今度またそういったところの意見交換がここで出来ればいいと思いますので、よろしくお願いします。

(山内委員)

ありがとうございます。サイドカーを企画した私達といたしましては、なるべくご迷惑をお掛けしないように自分達で自主的に場所をとってやりますよと言ったのにもかかわらず、課長さんがお部屋を取って下さるなど、お手を煩わせてしまいました。お手数をお掛けせずにやっていきたいので、こちらからのご報告というのがもし必要でしたら、我々の方から町長さんに毎回進捗状況をお知らせするようにします。それと共に他のいろいろな計画、進捗などをお互いに風通し良く、こんな風になっています、教育はこうです、と細かくコンタクトを取らせて頂きつつ、前進できるとよいと思います。

(町長)

その辺は協力しながらいかないとだと思います。その勉強会に教育長は一緒に入られているのですか。

(教育長)

私は毎回います。

(町長)

分かりました。教育長からも聞かせていただきます。どういうことが課題でどういう状況なのかというのを、意見交換の場、総合教育会議でもいいのですが、そうでない場を私も持てたらと思います。お忙しいとは思いますが、よろしくお願いします。

(渡辺委員)

一点確認いいですか。今のお話の中で、学校をどうしていくかの決断をどういう風にやっていくかということと、町全体の総合計画に関わるということでしたが、例えば第六次総合計画をこれから2年掛けてつくっていく中で、その次の10年にはある程度の学校の未来像というものは見えていた方がいいと思います。そういったことを踏まえると、やはり今年度か来年度くらいまでには学校をどのようにしていくかというところを、ある程度しっかりと見せられるものをつくっていく必要があるという解釈でよろしいということですよ。

(町長)

はい。第六次はとりあえずの10年なので、逆に言うとある意味もっと長いスパンで考えなくてはいけないことも出てくるとは思いますが、方向性を示していくための計画なので、丁度いいタイミングでもあるのかなと思います。

今日のところの議題は以上になります。全体を通してでもいいですし、また別の課題で何か最後ご意見ございますか。

(岡野委員)

子ども達の総合計画のアンケート結果ですが、もし可能でしたら現状のまま見せていただくことは出来ないでしょうか。まとめてしまうと子ども目線ではなくなってしまいますし、やはり子どもの末尾や言葉と言葉の間に入っていることなど気が付く部分がたまにあったりします。

(政策担当部長)

時間をいただければと思います。

(岡野委員)

一気にスキャンしてまとめて PDF でもいいですし、手間の掛からない最小限の方法でお願いします。

(町長)

分かりました。ではよろしいでしょうか。総合計画の年でもありますし、様々なことが進んでいきますので、是非計画自体を有意義なものにしていきたいと思っております。よろしくお願いします。

いたします。

それでは事務局の方にお返します。

(教育部長)

長時間に渡り、様々な議題につきましてご意見をいただき大変ありがとうございました。次回は令和4年1月21日(金)ですので、引き続きよろしく申し上げます。それではこれを持ちまして、第二回二宮町総合教育会議を閉会とさせていただきます。本日はどうもありがとうございました。

—会議終了—